

新年度を迎えて～意識改革を～

国立病院機構の職員にとって例年 4 月は中国四国グループ内での大きな人事異動のあり、個々の病院にとっても職員が大きく入れ替わる時期でもあります。高知病院に多大な貢献をしてくれた多くの仲間が去り寂しく感じられますが、一方、高知病院をこれから一緒に支えてくれる新しい仲間が加わって、今年も新年度がいつものようにスタートしました。国立病院機構の人事異動のシステムについては多々問題も指摘されていますが、他施設での様々な経験を持つ者が加わることは病院の活性化という点では意味があるように思います。高齢化、高額薬剤の出現など医療費の高騰が国の財政を圧迫するようになり医療制度の見直しが行われていますが、医療環境はこれからますます厳しさを増すことが想定されます。高知病院が所属する国立病院機構は全国 143 病院からなる我が国最大の病院組織ですが医療環境の変化に伴い経営が非常に厳しい状況に陥っているようです。このことは、機構内の個々の病院の経営状態が悪いことに他なりません。新年度の 4 月 1 日国立病院機構楠岡英雄理事長から国立病院全職員に向け「国立病院機構の再興に向けて」とのメッセージが届けられました。簡単にまとめますと「機構の経営状況は年々厳しくなって機構発足以来最大の困難な局面を迎えており、平成 28 年度は初めて経常収支が赤字となる見込みとなっていること。全職員の力を結集してこの困難な局面を乗り越え機構の再興を図ること。質の高い医療、研究、教育研修と健全な経営は対立するものではなく両立させるべきもので、両者は機構を支える車の車輪のようなものであり、いずれか片方が欠けても機構は存続できない。診療報酬改定、長期公経済負担、消費増税、建築費用の高騰など、国立病院機構を取り巻く環境は非常に厳しく、また、こうした状況は当面続くことが予想される。このような医療環境等の変化に起因する赤字からの脱却を果たすため、各病院の果たすべき役割の分析・検討、当面の投資の抑制による支出削減などあらゆる経営改善に病院・グループ・本部で一丸となって取り組み、機構の使命を適切に果たせる財務体質を構築し、平成 31 年度に単年度黒字化を目指す」などの内容でした。理事長からのこのようなメッセージはもちろん初めてのことであり国立病院機構の経営状況がいかに厳しいかが伝わってきます。このような状況ですので機構病院の中にも委譲、統合などの対象になる病院がでてくる可能性も否定できません。今こそ機構職員の意識改革が求められているのではないのでしょうか。高知病院は機構病院の一つとして機構に貢献することはもちろん、地域の医療を守っていくためにも経営基盤を確立させ、良質の医療を提供することで基幹病院としての役割を果たさなければなりません。高知県地域医療構想が策定され病床数の見直しが行われるようになっており実績がなければ高知病院も病床縮小の方向に進むことが危惧されます。この逆風の中、全ての職員の力を集結してこの困難な局面を乗り越え地域に信頼される病院を目指していきましょう。